

記念号の刊行にあたって

上田 泰

旧経済学部および経営学部の専任教員として長年にわたり多大なご貢献をいただきました平尾由紀子先生が2024年3月末をもって定年退職をされます。成蹊大学経済経営論集の本号は、その記念号として刊行されております。

本号に掲載されている平尾先生のご経歴からも分かるように、平尾先生は1978年3月に東京外国語大学外国語学部英米語学科をご卒業になり、1980年9月より米国のPrinceton Universityの大学院にご進学、1982年6月にMaster in Public Affairs（行政学修士）を取得されました。さらに1983年9月よりUniversity of Pennsylvaniaの大学院経済学部博士課程に進学され、1989年12月にOptimal Contracts in Economies with Private Informationと題する博士論文により、同大学よりPh.D. (Economics)（博士（経済学））を授与されました。職歴としては、(株)野村総合研究所、世界銀行を経て、1989年9月から1994年5月までPurdue University, Krannert School of Managementの経済学科に助教授としてご勤務され、1994年9月より成蹊大学経済学部経済学科に助教授として赴任されました。1997年4月には同学部教授になられ、学部再編により2020年度からは経営学部教授、2021年度からは経営学部特別任用教授になられています。平尾先生は、企業行動の理論分析、教育の経済学、エージェンシー理論などをご研究になられており、経営学部では「ゲーム理論」「組織の経済学」「産業の経済学」などの授業をご担当になられていました。

大学業務および学部業務においても平尾先生は多くのご貢献があり、旧経済学部においては入試委員長(1997年度)や教務委員長(2001年度)のほか、複数の期間にわたり学科主任(2004年度～2005年度、2012年度～2015年度)を務めてこられました。また、大学業務においても、大学評議員(2009年度～2011年度)、入試センター長(2017年度～2020年度)、学長補佐(2022年度～2023年度)など、多くの重要な役職を務めてこられています。

平尾先生はその卓越した英語能力により海外の著名論文誌に優れた論文を数多く発表されてきました。専門領域が異なる私は、その研究成果を正しく紹介することはできませんが、成蹊大学にご勤務されてからの業績を拝見しても、企業の立地選択や情報獲得や、日本の損害保険会社の規模の経済や範囲の経済を分析される一方で、米国のビジネススクールの効率性や日本のプロ野球チームの競争バランスにもご関心を向けるなど、非常に多岐にわたった領域で興味深い研究成果をあげてこられました。

平尾先生のお人柄の素晴らしさは、平尾先生を知るすべての人が等しく認めることであると思います。平尾先生がいらっしゃるから、この大学に勤めて良かったと思う人は、私を含めて決して少なくないと思います。

本来はこのようなところで個人の思いを述べるべきではないのですが、平尾先生には、私は個人的にも感謝したいことがたくさんあります。1998年4月に私が成蹊大学経済学部へ赴任したばかりの時に、たしかエレベータの中だったと思いますが、それまでまったく面識がなかった私に「上田先生ですか、同じ学部の平尾といいます」と笑顔で話しかけてくださったことを覚えています。単なる挨拶なのですが、成蹊大学でうまく生きていけるだろうかと不安に思っていた自分に「ここでなら生きられるかも」と思わせてくれた先生の笑顔を私は今も忘れることができません。

さらに、2020年度の経営学部の新設に際して経営学部への所属を決めてくださったことも大変に嬉しいことでした。経営学部の新設計画が進む中で、旧経済学部の教員の中で経営学部に移籍したい教員が自主的に移籍することになりました。経営学者や会計学者は経営学部に移籍することに躊躇いはなかったと思いますが、経営学部の設立にはどうしても経済学の研究者が必要でした。しかし、伝統と実績のある経済学部へ所属する経済学者が、まだ始まっていない経営学部に移籍することはかなり難しいと考えておりました。しかし、平尾先生に経営学部への移籍の可能性をお尋ねしたときに、「はい、経営学部に行きます。上田さんが深刻な顔をしていたので、何かと思っていたのですが、そんなことでしたか」とあっさりのご快諾くださいました。そうおっしゃりながらも平尾先生には無理をさせたのではないかと思います。平尾先生の移籍により、経営学部における経済学教育の礎が築かれたことは大変に喜ばしいことでした。心から御礼を申し上げたいと存じています。

平尾先生は、2024年度からは客員教授として引き続き経営学部の業務に携わってくださることになっていますが、専任教員の個人研究室からはご退室されます。10号館の7階で夜遅くまでほとんど消えることがなかった平尾研究室の在室ランプが点いていないことに気がつくとき、この上なく寂しく感じるようになると思います。

2024年3月

(成蹊大学経営学部長)